

地域おこし協力隊とは？

人口減少や高齢化等が進む地方で、地域外の人を受け入れ、地域協力活動を行ってもらい、その地域への定住・定着を図ることで、地域力の維持・強化を図っていくことを目的とした制度です。

芦屋町地域おこし協力隊 入江 俊充さんのコラムが始まります



■あいさつ

4月1日に芦屋町地域おこし協力隊として着任しました！

これから芦屋町で生活する中で感じた町のさまざまな魅力を、協力隊独自の視点で皆さんに届けていきますのでお楽しみに！第1回目は私のことを皆さんに知っていただきたいので、芦屋町に移住してからのことをお伝えします！

■芦屋町に来てからの日常

3月末に芦屋町に来て以来、自転車で町内を回りながら町外の人が興味を持ってくれそうなスポットや、釣りスポットを探しながら生活しています（皆さんのイチオシの場所があれば教えてください！）。

芦屋町の生活にも慣れてきましたが、着任後も新型コロナウイルスの猛威が続いており、緊急事態宣言の発出などに伴い飲食店や施設への訪問がまだまだできていません。

この状況が落ち着いたら芦屋町の飲食店やサービス施設へお伺いできるのを楽しみにしています。

■協力隊の活動

今は町のことをよく知るために町内のいろいろな場所へ足を運び、写真を撮りながらおすすめ情報を集め、SNSをはじめとした町のサイトから情報を発信しています。

また年間をとおした情報発信のスケジュールを作成したり、もっと町の情報を知ってもらえるようなWEBコンテンツ作成の準備をしています。

今後は農家さんや漁師さんたちをはじめとした町で働く皆さんにフォーカスした取材などをさせていただき、町外の人はもちろん町内の人にも芦屋町の魅力を発見してもらえるような情報を提供していきますので、お伺いした際はご協力お願いします！

最後に任期中の目標としては、芦屋町に来てくれる人が増えるような仕掛けづくりを行い、自分が町に魅力を感じて移住したように同じような移住やワーケーションに興味を持っている人たちを誘致していきたいと考えています。

日々の活動はInstagramで発信していますので、フォローして活動を応援してもらえるとうれしいです！

いりえ としみつ

入江 俊充（33歳） 独身・父母姉一人

宮城県仙台市生まれ兵庫県神戸市出身
東京と大阪で長く働いていました。

趣味は釣り！（食べられる釣りがメイン。ほぼ毎日行ってます）。ゴルフ（最近始めたので教えてください！）

■略歴

立命館大学産業社会学部卒業。学生時代は食育をテーマにした通販ビジネスの立ち上げを行い、それをきっかけとして東京の飲食ベンチャーに入社。

その会社では採用チームの立ち上げを行いながら、兼任で食ベログ/ぐるなびなどの運用を行い、以降はWEBを活用したプロモーション業務を中心に活動するようになりました。

その後、広告代理店で企業のIT化推進の支援などを行い、2021年1月に独立し現在も東京・大阪・福岡を中心とした企業のマーケティング支援を行っています。WEBを活用した情報発信は得意ですので町内でお困りの人は気軽にお声掛けください！



△夜焚きイカ釣りの様子。
イカの泳がせ釣りでタイを釣りました。



▷問い合わせ 地方創生推進係（☎223局3571）

芦屋歴史紀行

その三百二

資料収集へのご協力をお願い

大切な記念日とその思い出を残す写真は、「家庭の歴史資産」であり、思い出の品々は社会の移り変わりを伝える「芦屋の記憶遺産」です。

芦屋歴史の里では芦屋の歴史を伝える資料の収集をすすめています。現物だけでなく、町民の皆さんが持っている資料も、調査・撮影の許可を頂き写真として収集しています。古文書、古記録、古写真、書画、陶磁器、金工品、漆工品、木工品、民俗資料など多岐にわたり収集しています。近年寄贈される資料は、昭和の電化製品や古書が増加しています。また戦前・戦中、米軍統治時代の資料の寄贈も増加し、平和を語り継ぐための貴重な資料となっています。しかし、年代や種類、テーマ毎に見ていくと、芦屋の歴史を考えるうえで必要な資料が十分に揃っているとは言えません。

芦屋津・川ひらた関係の古記録
経済・民俗・文化などさまざまな分野で、近世・近代の芦屋を考えるときに重要な資料が古文書です。郡奉行所・郡役所が芦屋に所在してい

た歴史がありますので、町内に保存されている可能性があります。

地場産業漁業・農業・商業関係の写真など

押入れや倉庫に古写真は眠っていませんか。近代芦屋の発展を語るうえで欠かせない資料です。オリジナルでなくても結構です。対象となるものは、芦屋の歴史に関わる資料全般です。先人たちが紡いできた地域の歴史を後世に伝えるために、皆さんの幅広いご理解・ご協力をお願いします。寄贈が難しい場合はこちらで撮影・複写します。

断捨離ブームと外出自粛があいまって、家の片付けをする機会が増えました。古い物の中には芦屋町の収蔵資料となる候補が眠っているかもしれません。捨てればごみ、生かせば歴史を解明する資料。捨てる前に物と対話してみませんか。



▷8ミリ映画フィルムからVHSテープまで記録テープの数々



▷昭和初期、巴里から家族に送られて来た絵葉書

(芦屋歴史の里)

編集後記

▼取材で化石探検にお邪魔しました。写真を撮るのに夢中になって、滑りやすく、危うく飛び込み前転を決めてしまうところでした。一眼レフカメラを抱えていたので、体ごとカメラも飛ぶかと思っただけで冷や冷やしました。(野中)

▼サラリーマン川柳(以下サラ川)が発表されました。その中に「十万円 見ることもなく 妻のもの」というのがありましたが、我が家は「夫のもの」でしたので、思わず赤ペンで修正したくなりました。サラ川は夫の言い分が主で、自虐ネタが多いですが、その裏には妻の言い分もあることを感じ取ってほしいと、私なりに思いました。ネットで見ると「サラ川ベスト100」まで掲載されているので皆さんも楽しんでみてください。ところで、芦屋に定住した野生の白鳥家族の記事を9ページに掲載していますが、子どもが生まれる前、2羽で仲良く泳いだり、けんかをしたり(ほぼ食事時)する姿をよく見かけました。子どもが生まれて2羽の関係がどうなったのかちょっと気になります。子どもの食べ物を取り合ったりせずに、ほのぼのと過ごしてほしいと願っている私です。皆さんも見かけたときはそっと見守ってくださいとうれしいです。(鍛守)